

2026年度日系社会研修（多文化共生推進/日系協力型）日系サポーター コース概要

No	3
所管センター	筑波
分野	教育
研修コース名	日系人を含む在日外国人生徒に対するスポーツ振興及びスポーツ教育
受入人数	1
受入時期	上半期
来日	2026年5月13日（水）
帰国日	2026年12月19日（土）
提案団体	特定非営利活動法人オプジョン・インターナショナル・スクール
提案団体ウェブサイトアドレス	準備中
研修員必要資格	①スポーツが得意であること（競技者または指導経験があれば望ましいが、必須ではない） ②日系社会や多文化共生への貢献意欲が高いこと ③子どもと関わる活動経験があること ④積極的に人と関わるコミュニケーション力が高いこと ⑤語学：ポルトガル語（母語）、日本語能力試験（JLPT）N5相当以上または同程度 ⑥大学卒業程度（大学生も可）
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	ポルトガル語（母語）、日本語
日本語能力（JLPT目安）	N5
ポルトガル語	
スペイン語能力	ポルトガル語（母語）
研修目標	研修員は、スポーツを通じた多文化共生教育の実践を体系的に学び、外国にルーツをもつ子どもたちへの指導力や企画力を高め、地域全体においてスポーツを通じた世代を超えた交流を促進する。また、研修での学びをブラジルにおける日系人社会に還元するためのアクション・プランを作成する。
期待される成果（習得する技術）	研修員は、 ①多様なスポーツ活動における先進的な指導法や、学び方の工夫を体験しながら学び、ICTなどのツールも活用しながら実践的に体験する。 ②スポーツ教育に関する幅広い分野（障害者スポーツ、児童スポーツ、心理・体育の授業づくり、生徒の安全・健康管理など）を学ぶ。 ③学校と地域が連携し、持続可能な形でスポーツを振興するための戦略や地域資源の活用方法について理解を深める。 ④スポーツによる心身の健康促進や自己肯定感、社会的なつながり（エンゲージメント）をどう高めるかについて、科学的な根拠をもとに学ぶ。 ⑤地域社会との協働によるスポーツ交流イベントの企画・実施を通じて、実践的なマネジメントスキルと多様性理解を養う。 ⑥帰国後の活動に向けた実践計画をまとめ、ブラジルの地域のニーズに合った具体的な活動プラン（アクションプラン）を作成する。
研修計画（内容）	① 講義・ワークショップ： ・スポーツを通じた心身の健康促進、自己肯定感やモチベーション向上の効果について、最新の研究や事例に基づいて学ぶ ・スポーツ教育に関する基礎知識と実践（障害者スポーツ、児童・青少年への指導、スポーツ心理、安全・健康管理、インクルーシブ教育の観点を含む） ・地域・学校・家庭の連携を促進するための基礎的な日本語学習とコミュニケーションスキル習得 ② 見学・視察： ・市役所、教育委員会、学校、社会福祉協議会などにおけるスポーツ振興の取り組みや、地域連携による活動事例を視察 ・デジタル技術（ICT）を活用した地域スポーツ推進や、外国にルーツをもつ児童への支援事例の見学 ③ 交流活動：地域社会、学校、ボランティア団体との交流を通じ、協働によるスポーツイベントや多文化理解活動を体験 ④ 実践事業： ・生徒・教員・保護者を対象としたスポーツイベントの企画・実施。 ・学んだ指導法や企画運営スキルを活かし、インクルーシブかつ多文化共生を意識した活動を展開 ⑤ 研修：当校スタッフに対する研修や意見交換を通じ、学んだ内容を共有 ⑥ 計画と発表：帰国後に向けた学びのまとめと活動計画の発表
研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等	茨城県常総市は首都圏に近く、人口の11%を超える外国籍住民が占める多文化共生地域で、特に約1,800人の日系ブラジル人は、地域経済を支える重要な存在でありながら、言葉の壁や教育課題、地域社会とのつながりが少なく、さまざまな困難を抱えている。また、近年は高齢化も進みつつあり、世代を超えた支援が求められている。 当校は、2001年に日系ブラジル人の幼児から高校生を対象とした学校として開校し、2003年にブラジル政府の公認を受けて正式なブラジル人学校として認可され、2019年には日本でNPO法人化して現在に至っている。ブラジルの教育課程に基づき、進学・就労・地域定着までを支援し、教育と地域とのつながりを大切にしている。 現在は約90人の児童生徒が在籍しており、多くが日系ブラジル人をはじめとする南米出身や日本生まれの子どもたちである。こうした子どもたちは、日本語や文化への適応が難しく、不登校や中退のリスクも抱えており、家庭も地域との関係が希薄で孤立しやすい状況にある。当校はこの課題に対し、「スポーツ」に着目し、言語や文化を超えて子どもたちの自己肯定感や社会性を育む手段として、バレーボールやサッカーなどの活動を行っているが、地域とのつながりはまだ限定的である。 2021～2023年度は日系サポーター研修員と共に日本文化交流活動を通じて、子どもたちの文化的な地域への定着を支援した。2024年度は日系サポーター研修員と共にスポーツ振興を軸に地域との連携も拡大することができた。2025年度からは障害者スポーツとの連携を始め、よりインクルーシブな学びを進めている。また、日本の武道や部活動にも挑戦し、多様な交流の場を広げているところである。 2026年度は、こうした活動をさらに発展させ、スポーツを通じて異文化理解や共感力を育み、日本とブラジルをつなぐグローバル人材の育成を目指す。同時に、常総地域の高齢化するブラジル人コミュニティとも連携し、世代を超えた共生モデルの構築を進めていきたいと考えている。
本研修実施の意義 応募者への裨益効果	本研修で研修員は、スポーツが心と体の健康づくりだけでなく、自己肯定感や社会性、異文化理解を育む有効な手段であることを学ぶ。また、スポーツを通じた多文化共生教育の実践を体系的に学び、外国にルーツをもつ子どもたちの成長を支えるための指導力や企画力を高め、地域と連携してスポーツ活動を展開する方法についても理解を深め、グローバルな人材となることが期待される。特に、バレーボールやサッカーに加え、障害者スポーツや日本の武道や部活動との連携を通じて、多文化理解やインクルーシブ教育に応用できる効果的な指導法を習得し、実践現場で広く活用できる力を身につける。 日系人や外国ルーツの子どもたちにとっては、スポーツは心身の健康増進や認知刺激だけでなく、自信や人とのつながりを育てるきっかけとなり、ストレスの軽減や健康増進にもつながる有効な手段となる。 子どもたちの参加を通じて保護者や地域住民の関心も高まり、世代を超えた交流が広がることで、持続可能な多文化共生の地域づくりにもつながっていくことが見込まれ、研修員は研修で得た知見を活かし、家庭・学校・地域が連携して子どもたちを支える体制を強化する。さらに、近年高齢化が進む在日ブラジル人コミュニティにおいては、スポーツを通じて世代を超えた交流を促進し、健康づくりや社会参加を支える新たな取り組みにも挑戦する。こうした世代間のつながりを育むことで、地域全体の多文化共生がより持続可能な形で深められることが期待される。 帰国後研修員は、日本での多文化共生の現場で得た経験や知識を活かし、現地でスポーツを通じた青少年育成や地域交流、日系コミュニティの支援に積極的に取り組むことが期待され、研修での学びを同様の課題を抱えるブラジルなどの日系人社会への支援モデルとして共有・展開していく計画を立て、実践する。
期待される国内の中南米出身者のコミュニティへの貢献（活動）	研修員は、スポーツを通じて中南米出身者を含む外国ルーツの子どもやその家族に運動習慣の大切さを伝え、地域スポーツイベントなどへの参加を促すことで、日本人との交流を自然に生み出す役割を担うことが期待される。また、生徒を通じて家族や地域の人々と広がり、健康づくりやストレスの軽減、生活習慣病の予防といった意識を高めることにもつながる。結果として、多文化共生と地域の健康促進を両立させる持続可能な地域づくりへと発展していくことが見込まれる。
応募希望者への特記事項	宿舎は常総市内のホテルやマンスリーマンションを検討。宿舎や学校間にはスクールバスあり。